

受賞作品

## 中小企業金融の経済学

金融機関の役割 政府の役割

植杉 威一郎 著

日経 BP 日本経済新聞出版 416 ページ、4,000 円（税別）



書評

### 効果実証 緻密な力作

学習院大学教授 細野 薫

日本の中小企業金融は政府系金融機関による低利貸し出しや公的信用保証などさまざまな政策措置が講じられており、震災、コロナ禍など危機のたびに支援が拡充されてきた。これには、地域経済や雇用の維持の面から必要だとの議論がある一方、非効率な企業の温存につながり経済成長を損なうとの議論もある。

だがいずれの議論も、ほとんどはエビデンスに基づいておらず、政策効果の十分な検証がなされてきたとは言い難い。その一因は、中小企業に関するデータの入手が困難であったことにある。

本書はその障壁をこじ開けた力作である。中小企業向けアンケート調査、政府統計の個票、民間信用機関のデータ、政府系金融機関の匿名化されたデータなどさまざまなデータを駆使し、中小企業金融の現状と政策効果に関する緻密な実証分析を行っている。

内容は多岐にわたるがとくに重要な発見は、日本の中小企業が直面している資金制約は政策効果もあり相当程度緩和されている一方、効率的な企業ほど多くの資金提供が受けられているかという資金配分の観点からは、政策の副作用もあり、非効率性が存在しているという事実である。

こうした実証結果の提示は、今後、中小企業金融政策におけるEBPM(証拠に基づく政策形成)に大きく寄与すると期待される。学術書だが読みやすさにも配慮されている。